



# 水田活用にはこんなメリットが 利点を知る

現代の農業のキーワードは、「農地集積」と「経営の合理化」。国が農家に行う補助や交付金は、今の日本で必要な米や野菜の量や作付面積で算定されています。米の収穫が少なければ米を作っている農家に、特定の野菜の収穫が少なければ野菜を作っている農家にといった具合に、その年によって制度が大きく変わってきます。

農業を営みながら国の政策を理解することは難しいことです。ここでは平成 25 年度の国の補助や交付金の内容、「人・農地プラン」を紹介します。

**営農計画書** 提出時期：毎年3～6月

## 田・畑の面積

1反(たん)

米が約7～8俵

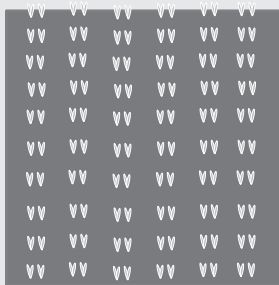
約10m

約100m

10倍  
→

1町(ちょう)

約100m



1反

||

約10a(1000㎡)

1町

||

約1ha = 100a



営農計画書とは…

水田を耕作している人が、どの作物をどれだけの面積作っているのかを把握して、国の生産計画を打ち出す大切な書類です。

さまざまな交付金や補助金の算定資料でもあり、計画書の提出は生産者へのメリットもあります。